

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101458		
法人名	医療法人 街道会		
事業所名	グループホーム あした葉		
所在地	島根県松江市雑賀町299番地 (電 話) 0852-21-8700		

評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年3月12日

## 【情報提供票より】(H20年 1月 30 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 12.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円
敷 金	有( ) 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(228,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,260 円		

### (4) 利用者の概要( 1 月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院、森江歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは街中の医院に併設しており、往診や看護師による健康管理、看護が受けられ、利用者、家族にとって安心となっている。開設後まもなく2年になるが、ホームの運営も安定に向い、習字やお茶会、演芸グループなどボランティアの来所もあり、利用者の楽しみ、地域との関わりなど増えつつある。住宅密集地にあるが、公民館を中心に防災協力体制ができ、町内会の会合に参加して一緒に話し合ったり、避難訓練を見学してもらいアドバイスを得るなど地域との連携体制も整いつつある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員会議で報告し、順次実践の中で見直しや改善をしている。家族向けや地域向け広報紙発行、少人数で寛げる居場所作り、職員も一緒に食事を楽しめるようにしたり、介護計画や地域との関わりなどたくさんあった課題を少しずつ改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに職員全員で自己評価を行い話し合っている。職員はグループホームの本来のあり方など改めて話し合い、自己評価を活用している。改善計画シートに前回の改善経過、現時点での課題を書き出し、新しい計画をたてたり改善にとりかかっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市、地域包括支援センター、町内会会長・副会長、民生委員、家族等の参加を得て3~4ヶ月に1回開催し、事故報告などもしている。参加者から災害時の避難方法、公民館の催し、ボランティアの紹介など提案や申し出もあり、地域関係者との話し合いの機会になっている。利用者の参加はないが、居間で開催しているので生活の様子を見てもらい、言葉を交わすなど自然な交流もある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「あした葉便り」でホームの活動や職員異動のお知らせなどのほか、個別の活動の写真と担当からのお便りを掲載している。体調の変化などはこまめに連絡している。運営推進会議に家族4名前後の参加があり、意見や要望を聞き対応している。家族アンケート結果も報告している。苦情があったときは苦情相談受付簿に記録し、すみやかに対処しスタッフ会議でも報告している。家族同士の交流や意見を聞く機会として家族参加の行事を開催したいという意向を持っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>街中にあり、毎日散歩や買物に出かけ挨拶をするようにしている。町内会にも加入し運営推進会議、防災訓練に参加してもらおうなど交流が増えている。地域向けの広報紙も初めて発行し、自治会へ回覧した。お茶会、習字、演芸グループなどボランティアの来所もある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心身ともに安心して暮らせるように援助します」という理念があり、「地域に根ざした取り組みを積極的に行い、地域で支えあえる町づくりに貢献します」とパンフレットに明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや相談室に掲示している。職員は朝の申し送りでも理念を復唱している。医療との連携により生活を支えていく方針があり、日々健康面の把握を重視している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	街中にあり、毎日散歩や買物に出かけ挨拶をするようにしている。町内会にも加入し運営推進会議、防災訓練に参加してもらうなど交流が増えている。地域向けの広報紙も初めて発行し、自治会へ回覧した。老人会に継続して参加している人もある。お茶会、習字、演芸グループなどボランティアの来所もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は職員会議で報告し、ケアの中で見直しや改善をしている。少人数で寛げる居場所作り、介護計画や地域とのかかわりなど改善している。今回はユニットごとに自己評価を行っている。自己評価時に改善計画シートに改善経過、現時点での課題を書き出している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、地域包括支援センター、町内会会長・副会長、民生委員、家族等の参加を得て3～4ヶ月に1回開催し、事故報告などもしている。参加者から災害時の避難方法、公民館の催し、ボランティアの紹介など提案や申し出もあり、地域との貴重な話し合いの機会になっている。利用者の参加はないが居間で開催しているので言葉交わすなど自然な交流がある。	○	地域との貴重な話し合いの機会になっているので、2ヶ月に1回開催できるようにし、ホームからの相談や提案も行い、地域との良好な関係づくりに活用してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加があり、助言を得るなどしており、相談しやすい。制度のことなど施設長は市の担当者へ相談したり助言を得たりしている。サービスの質の向上に向けた積極的な連携までは至っていない。	○	雑賀地区では認知症を地域で支える活動に取り組んでいるので、市、社協、地域包括等と連携し、活動の充実に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あした葉便り」でホームの活動や職員異動のお知らせなどのほか、個別の活動の写真と担当からのお便りを掲載している。体調の変化などはこまめに連絡している。本人の希望で家族に電話して面会を依頼することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族4名前後の参加があり、意見や要望を聞き、対応している。家族アンケート結果も報告している。苦情があったときは苦情相談受付簿に記録し、すみやかに対処しスタッフ会議でも報告している。家族同士の交流や意見を聞く機会として家族参加の行事を開催したいという意向を持っている。	○	家族同士が気軽に話し合いできるような場面や意見交換の機会を持ち、家族と共に利用者の生活を支えていく体制作りに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜間は夜勤者1名、当直1名体制であり、ユニット固定ではないため夜勤者は前日は日勤で利用者状況を把握するようにしている。新採用の職員の初めての夜勤時には夜勤2名、当直1名の3人体制で行っている。開設後まもなく2年になるが、職員の増員も含めて異動が続いている。	○	利用者との馴染みの関係、信頼関係を築くためにも、職員の異動が少なくなるような体制に期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	先輩職員によるOJTで介護業務や行事の立案、実践など学ぶようにしている。外部の研修にも経験や段階、希望に合わせて派遣している。開設して2年目であり職員体制が不安定であったこともあり、計画的な研修派遣や職員育成を課題としている。	○	計画的な研修派遣、資格取得に向けた支援など職員育成に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加している。親しくしている他法人のグループホームがあり、運営推進会議に参加したり情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があった場合は事前に見学をしてもらったり、自宅を訪問して落ち着いた環境の中で話を聞き本人の意思確認をしている。また、入居が決まると利用中のデイサービスなどを訪ねたり茶話会に来てもらったりして顔なじみになるようにしている。入居後は家族や主治医と連絡を密にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と話をするときは目線を同じにして、傾聴するようにしている。椅子に座った人に話しかけるときもしゃがんで目線を同じにしている。人生の大先輩として仕事や暮らしの経験、人生観を尊敬の念で傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情、行動などから把握している。日常生活ではまず本人の希望を聞いてから援助するようにしている。利用者個々が大切にしていることや人生観、暮らしの経験など会話や家族の話で把握するようにしている。会話の少ない人、入居後間もない人もまだまだ十分に把握できていない。	○	利用者との会話からの把握が多いが、センター方式の「暮らしのシート」などアセスメントシートによる把握も試みてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医からのサマリーなども参考に介護計画を作成している。入居後間もない人や家族と話をする機会の少ない人もあり、本人の意向が把握できていないケースもある。	○	本人の暮らし方の希望や意向把握にアセスメントシートなども活用し、介護計画に反映していくことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスで話し合っってモニタリングを行い見直しをしている。計画作成担当者、担当職員が参加し、医療連携している医院から毎月届く「介護保険情報提供書」に記載された意見や助言も参考にしている。サービス担当者会議録に記録を残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の医院と医療連携があり、早期退院の受け入れもできる。入居前からの老人会へ継続して参加する人があり代表者への連絡など援助している。馴染みの店や美容院も継続して利用できるように送迎等行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に全員が併設の医院をかかりつけ医にしており、往診や看護を受けられる。バイタルチェック等で変化があれば相談できる体制になっており入院が必要な場合はかかりつけ医が他医療機関へ紹介している。入居前からの医療機関への継続利用もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の医院との契約による医療連携体制があり、入居時に書面で説明している。ホームにも看護師がおり、併設医院と常に連携しながら健康管理をしている。健康状態の変化があれば家族の意向を聞き入院等の対処している。入院先で終末を迎えたケースはあるが、ホームでの看取りはない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉遣いをしている。居室入口の写真は利用者や家族の了解が得られた人のみ掲示している。入浴や排泄介護は利用者の意志を尊重し、同性介助を基本としている。避難訓練時に近隣の人から名札をつけてほしいといわれ、散歩に出る時も利用者、職員ともホーム名を書いたカード付けている。	○	ホーム名を書いたカードは避難時には必要だが、日頃の使用については検討して欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先し、性格やペースに合わせて援助している。毎日の散歩、自室での食事、定期的なドライブ外出、昼夜逆転傾向にある人への対応などそれぞれのペースに合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は三食ホームで作り職員も一緒に同じ物を食べている。2階の利用者は盛り付けや配膳、下膳、食器拭きなど手強い、調理担当の職員に料理法や味付けなど語っている。一緒に買物にも出かけている。1階は介助や見守りを必要とする人が多いが、なごやかに共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2階は利用者の希望に応じており、毎日入浴する人もあるが、1階は希望を聞きだすのが困難で職員が調整している。入浴嫌いな人もあり、様子を見ながらすすめている。1階の浴室には介護用浴槽があり車椅子の人も楽に浴槽に入れる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳、テーブル拭き、下膳、散歩、買物、洗濯物たたみ、掃除等できることを取り入れている。洗濯物を自室に干して管理する人もある。ボランティアによるお茶会、習字、演芸がありアロマセラピーも予定している。2階の利用者は共同でロール絵の制作をしており雑賀町文化祭への出展を目標にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩、近くのスーパーへの買物などなるべく外へ出るようにしている。商売をしていた店、墓参り、美術館など馴染みの場所や希望されるところへ気分転換を兼ねて個別に出かけている。イングリッシュガーデンなど観光スポットへの外出も計画している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。外出には職員が付き添っている。玄関前に庭がなく、車の進入路となっているので玄関チャームをつけているが、ボリュームを下げて利用者の耳障りにならないように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者参加の避難訓練を行い、見学した町内の人からアドバイスも受けている。地区で災害時の協力体制があり、町内会の会合に参加して防災、災害時の体制について話し合っている。医院に併設しているので救急時の支援体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない人には番茶ゼリーを提供している。粥、きざみ、汁にとろみをつけるなど個別に工夫している。水分量は1日1,000ccを目安にし必要な人はチェック表で把握している。摂取量が少ない場合は間食にバナナなどで補っている三食ホームで作っているが総カロリーや栄養バランスはチェックしていない。	○	ホームで提供している食事のおおまかなカロリーや栄養バランス、個別に必要な栄養量を把握して支援することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物を置き、居間、廊下には利用者の作品や行事の写真を掲示している。リビングは明るく畳コーナーもある。廊下の端の日当たりのよいところに談話コーナーがあり、レースのカーテンをつけたことで利用者、家族にも好評で寛ぎの空間として活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドのみ備え付けで、小物入れやテレビなど自宅から持ってきてもらっている。馴染みの家具やテレビ、鉢植え、茶道具、絵画など置いて自分の部屋らしくしている。危険防止のためやむを得ず小物類はすべてを押し入れに収納し、室内はベッドのみにしている人もある。		